

令和4年度 取組の進捗状況

大学名：兵庫教育大学

< I. 先導的・革新的な教員養成プログラム、教職科目の研究・開発 >

※開発科目及び減ずる科目の検討状況について記載してください。

| 取組の内容 | 進捗状況 | 今後の計画 |
|---|---|---|
| (1) 新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの提案 | <p>本学でこれまで運用してきた教員養成スタンダードをベースに、「公立の小中学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」に基づき「新・兵庫教育大学教員養成スタンダード(案)」を作成した。</p> <p>新スタンダードは、「教師として学び続ける力」を軸に、教職に必要な資質・能力を「教職基盤」という新たな概念で整理したものである。作成した新スタンダードは、9月末までに学内、連携大学、日本教育大学協会研究集会等にて公開するとともに、パブリックコメントの収集を実施した。寄せられた意見に基づき、アジャイル型手法による更なる見直しを行っている。</p> | <p>パブリックコメントで収集した意見に基づいて小学校版のスタンダードを修正・確定するとともに、幼稚園、中学校の教員養成向けの詳細版を作成する予定である。</p> <p>その上で、学部教職科目体系(含 教育実習、教職実践演習、卒業論文等)を新スタンダードに基づいて再構成する予定である。</p> |
| (2) 学生の成長を可視化するツール(e-ポートフォリオ)の運用・改善 | <p>現行スタンダードに基づくe-ポートフォリオ運用の取り組みを振り返り、課題を明確化するとともに、新スタンダードに基づいて学生の成長を可視化する方策について検討を進めている。</p> | <p>新スタンダード詳細版の策定と同時並行で検討している自己評価システムのあり方を進展させる。</p> |
| (3) 新・兵庫教育大学教員養成スタンダードに基づく教職科目体系の見直し | <p>策定した新スタンダードで整理した「教職基盤」に基づいて現行の教職科目体系のマッピングを行うことで、新たな教職科目体系の見直しの論点の明確化を試みた。</p> | <p>Society5.0時代に対応した新たな教職科目を加えた教職科目体系の全体的な見直しを行う。</p> |
| (4) 学習者中心の学びのデザイン、ファシリテーターとしての教師の役割、インクルーシブ教育に関する科目開発 | <p>①学習観の転換とその核心としての学習者観の転換、それに基づく学習環境のデザイン等について学ぶ「学習科学と授業のリデザイン」、ラーニング・ファシリテーションに関する理論を展望し、ファシリテーターとしての教師の役割等について学ぶ「ラーニング・ファシリテーションの理論と実践」という2つの授業科目を開発し、更なる改善を図っている。</p> <p>②「インクルーシブ教育基礎論」「インクルーシブ教育実践論」を開発し、内容に関する大学教員らの意見を踏まえ、かつ試行的授業を実施しながら、さらなる改善を図っている。これまで試行的授業を2回実施した。</p> <p>③指定大学が加える科目22単位のうち、当該領域に新たに8単位分を設けるにあたり、従来の教職科目については、教職課程コアカリキュラムの内容を満たしたうえで、授業内容や単位数の見直しを行っている。</p> | <p>企業と共同した試行的授業も実施予定であり、試行的授業を重ねながら科目内容を確定していく。</p> <p>従来の教職科目について、授業内容や単位数を確定する。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(5) Edtech、教育データの利活用、STEAM 教育に関する科目開発</p> | <p>①Edtech に関する科目：現行及び新設の関連科目全体の体系化を行い、「教育情報化概論」、「デジタル学習環境と情報活用」、「小学校プログラミング教育教材論」、「情報モラル・セキュリティ教育論」の開発を想定し、シラバス案を策定した。このうち一部を試行的に実施した。</p> <p>②教育データの利活用に関する科目：教養科目として「AI・データサイエンス基礎」を、教職科目として「教育データサイエンス」を新設し実践を開始した。</p> <p>③STEAM 教育に関する科目：「STEAM 教育概論」、「SETEAM 教育演習」の開発を行っている。一部あるいは全部の試行的実践を行い、成果や課題をまとめた研究論文を刊行した。</p> <p>④指定大学が加える科目 22 単位のうち、当該領域に新たに 8 単位分を設けるにあたり、従来の教職科目については、教職課程コアカリキュラムの内容を満たしたうえで、授業内容や単位数の見直しを行っている。</p> | <p>Edtech に関する科目については、今後も試行的な実践を継続し、具体的な教材研究を進める。</p> <p>教育データの利活用に関する科目、STEAM 教育に関する科目については、令和 4 年度後期現在も試行実践を行っている。</p> <p>また、これらの取り組みを推進するための学習環境として、連携企業とのタイアップのもと、学内、附属小学校、附属中学校に新たに STEAM Lab を設置(高性能デスクトップ PC や 3D プリンタ等を配備)しており、これらを活用した試行実践を今後展開する予定である。</p> <p>従来の教職科目について、授業内容や単位数を確定する。</p> |
| <p>(6) 教師の連携・協働による教育体制の構築に関する科目開発</p> | <p>①「新・兵庫教育大学教員養成スタンダード」の構想に基づき、該当科目において伝達すべき知識や伸ばすべき資質・能力について検討を行った。また、授業の方法や内容について構想を検討しつつ、関連する実践(学校内外での連携・協力による学校課題解決の実践)経験のある研究者等にインタビュー取材を行い、どのような題材を取り扱うのが適当か、また授業実施にあたっては、どういった外部機関との連携が必要かを検討した。</p> <p>②「子どもの安全と学校組織」「教師の連携・協働と学校経営」「多機関連携と学校防災」を開発し、シラバス案を策定した。</p> <p>③指定大学が加える科目 22 単位のうち、当該領域に新たに 6 単位分を設けるにあたり、従来の教職科目については、教職課程コアカリキュラムの内容を満たしたうえで、授業内容や単位数の見直しを行っている。</p> | <p>学校において連携を要する指導場面や危機管理場面を題材とするケース検討により授業を展開する、という方向性を確認したので、今後は関連する実務経験を有する研究者等への取材を継続しつつ、具体的な教材の開発に着手する。</p> <p>また、学部学生や教職大学院生を対象として授業を試行し、本格実施に向けた修正点を探ることを検討している。</p> <p>従来の教職科目について、授業内容や単位数を確定する。</p> |
| <p>(7) 教職大学院共通 5 領域に加える新たな領域科目の開発およびその汎用化</p> | <p>①「学習科学と授業のリデザイン」、「ラーニング・ファシリテーションの理論と実践」、「STEAM 教育発展論」、「教育データサイエンス発展論」、「インクルーシブ教育発展論」の開発を構想している。</p> <p>②「学習科学と授業のリデザイン」「ラーニング・ファシリテーションの理論と実践」では、学部生、大学院生、大学教員が「学びのトライアングル」を構成し、授業を展開していく科目として検討している。</p> <p>③「STEAM 教育発展論」、「教育データサイエンス発展論」、「インクルーシブ教育発展論」についても、内容を構想中である。</p> | <p>共通 5 領域に加えて設定する新たな領域の枠組みを検討するとともに、単位化に必要な条件等の整備を行う。また詳細なシラバス開発や試行実践を行い、成果と課題を明らかにする予定である。</p> |

<Ⅱ. 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開>

| 取組の内容 | 進捗状況 | 今後の計画 |
|--|---|--|
| <p>(1) 全国的な教員養成ネットワークのプラットフォーム構築による先導的プログラムの展開</p> | <p>①民間企業13社、国公立大学8大学、研究機関、教育委員会・学校、教育行政関係機関、NPOなど15機関で構成される「兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム」を設立し、3月にキックオフミーティングを開催した。</p> <p>②9月には連携大学、教育委員会に対し、新・兵庫教育大学教員養成スタンダード(案)に対するパブリックコメントを実施した。連携大学とはすでに教員養成フラッグシップ大学事業での連携に関する覚書を交わしている。</p> <p>③民間企業との連携については、令和2年度から東京書籍とクロスアポイントメント契約によるプロジェクト研究員(客員准教授)としての雇用、本郷さくら法律事務所(スクールロイヤー)とのクロスアポイントメント契約により准教授1名、垣内敬造事務所(デザイナー)とのクロスアポイントメント契約により教授1名をそれぞれ雇用している。</p> <p>④11月1日にLITALICO社(障害者向け就労支援サービスや「ソーシャルスキル&学習教室」などを展開)と連携協定を締結したのを皮切りに、錦城護謨株式会社(モノづくりと福祉事業を展開)、株式会社アワーズ(複合型テーマパーク・アドベンチャーワールドを運営)など順次連携協定の締結を行っている。民間企業等との連携については、それを支援する職員をクロスアポイントメントで採用し、共同開発する科目と企業とのマッチング業務など様々な連携を進めている。</p> | <p>今年度中に全ての連携企業との協定、および具体的な成果物が想定できた時点で、知財関係の契約を締結することとしている。また、知財管理については、今後、兵庫教育大学知的財産管理室を設置し、知財コーディネーターを雇用する予定である。</p> <p>また、令和5年3月に今年度の進捗状況を報告するコンソーシアムの会議を開催予定である。</p> <p>今後、より一層連携を進めて、取り組みや科目の開発、見直し、成果の普及推進を行う予定である。</p> |
| <p>(2) 教職課程におけるFDモデルの開発(人材育成・能力開発目標の設定)・改善</p> | <p>コンソーシアムを構成する大学のFD推進担当者と民間企業等の担当者による「コンソーシアムPDディヴィジョン」を組織し、そこにおいてコンソーシアムの構成員が協働的に学ぶ取組を企画・実施していく計画を構想している。</p> | <p>左記計画の実現可能性を高めるために必要な環境や条件等の整備に取り組む。</p> |

<Ⅲ. 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献>

| 取組の内容 | 進捗状況 | 今後の計画 |
|--|--|---|
| <p>(1) 学部から教職大学院への接続による教員養成の高度化の検討（5年一貫による学部・教職大学院の一体的な教員養成カリキュラムの開発、現職教員研修との連携の在り方の見直し）</p> | <p>早期卒業制度等を活用して連携教職大学院に入学する5年一貫教員養成のルート（3+2）を設けることを検討していたが、中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会における「教師の養成・採用・研修の改善を求める答申」（12月）をうけた、専門職大学院設置基準の改正動向を見据えて、当初の構想を見直す予定である。</p> | <p>中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会における「教師の養成・採用・研修の改善を求める答申」（12月）をうけた、専門職大学院設置基準の改正動向を見据えて、5年一貫カリキュラムの検討を行う。 学部と教職大学院の科目の重複の見直しを行う。</p> |
| <p>(2) 教育大学（学部）における専門職養成機能の一層の強化、及び教員免許制度改革を視野に入れた教職科目体系の研究</p> | <p>特例措置22単位（小学校）以外に、教員養成大学（学部）については教職アドバンスト科目15単位程度を開設し、「自律した学修者」としての教師の学びに関するマネジメント力育成に資する科目開発を進めている。さらに、教員免許制度改革を視野に入れた教職科目体系の研究を行っている。</p> | <p>教員免許制度改革を注視しながら、コアカリキュラムを満たした教職科目体系について、継続して検討する。 学部科目のうち、発展的な内容を扱う科目を教職アドバンスト科目として位置付けることの検討を進める。</p> |

<Ⅳ. 「教員養成フラッグシップ大学推進委員会」所見>

| 取組の内容 | 進捗状況 | 今後の計画 |
|--|----------------------|-------|
| <p>(1) 自大学の課題解決のみならず、教員養成大学・学部以外における教員養成の高度化・機能強化に資する観点を含め、将来的に我が国の教員養成全体の課題解決につながるモデルとしての取組とすること。</p> | <p>I. (1)～(3) 再掲</p> | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(2) 人的・物的・資金的リソースの提供等も含めた様々なステークホルダーとの連携・協働を介して、教員養成の課題解決を主導する取組とすること。</p> | <p>II. (1) ②～④ 再掲</p> | |
| <p>(3) 5年先を見据えたガバナンス体制をしっかりと構築すること。</p> | <p>学長のリーダーシップの下、平成30年に設置した教員養成・研修高度化センターで担っていた新人教員の養成部門を改組し、「先端教職課程カリキュラム開発センター」を設置した。同センターには、「先端教職科目研究開発ラボ」と「教職課程改善システム研究開発ラボ」の2つのラボ（研究開発部門）を設置し、新設科目等のカテゴリー毎に、13のチームを配して研究開発を行っている。</p> <p>また、同センターは、本学を中核に、連合大学院博士課程構成大学、放送大学や立命館大学教職研究科をはじめとする国公私立8大学、教職員支援機構、附属学校園や県内公立学校、民間企業13社、全国の小中高校校長会、教育長会、県・政令市教育委員会、さらに社会教育施設など、合計36機関との連携によるネットワークを構築し「兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム」を運営している。</p> <p>令和4年度概算要求において措置された2人の専任教員に加え、学内振替等29人による教育研究組織の再編を行い、常に先を見据えた科学的知見に基づく教員養成カリキュラムの不断の開発・改善に多くの機関と連携して取り組んでいる。</p> | <p>本学の人事と配置は、学長が全学的見地から統括する仕組みとなっており、本事業推進においては、従来の教員養成分野の専門領域を越えた人材に絞り込んで採用するとともに、大学設置基準及び教職課程認定上必要な教員数を確保しつつ、定年退職及び途中退職によって生まれたポストを新規事業や改組の教育研究組織に振り向けるなど、全学的な資源の再配分を常時行っている。</p> <p>令和5年度以降は、学内振替による教員を4人増やし33人とし、令和4年度概算要求予算措置による新規採用教員2人、令和5年度概算要求予算措置による新規採用教員2人を加えた37人に拡充整備し、最終的には42人に拡充整備する予定である。</p> <p>各チームに配置する教員は、事業の進捗状況・達成状況に応じて、フレキシブルに対応し、適時最適な配置を行うこととしている。</p> <p>また、4年度中には、連携機関との本事業推進に係る連携状況の報告及び今後の事業計画についての意見交換を行うなど、「兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム」の開催を予定している。</p> |
| <p>(4) 他大学、研究機関、教育現場、教育行政関係機関、NPO、民間事業者等と緊密に連携するとともに、教員養成フラッグシップ大学間での連携・協働も積極的に検討・推進すること。</p> | <p>II. (1) 再掲</p> | |

<V. 申請大学に対する委員会審査意見> 兵庫教育大学

| 取組の内容 | 進捗状況 | 今後の計画 |
|---|---|---|
| <p>・これまでの実績に加え、教員養成フラッグシップ大学としての取組が明確に示されており、確実な成果が期待できる。また、サブ・テーマとして「アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発」を掲げており、こうした手法によって不断の改善を図ろうとする姿勢が評価できる。</p> <p>・教員養成スタンダードを立て、それに対応して7テーマを広くカバーしているという領域の広さ、日本型STEAM教育、インクルーシブ教育、教育データサイエンスのいずれにおいても、具体的な独自性が高い内容が設定されている。またカリキュラム開発において、社会的インパクト評価のためのロジックモデルの構築に取り組むなど、構想を実現するための検討がしっかりとなされている点が評価できる。</p> <p>・取組の評価に当たっては、直接支援・介入可能な成果（アウトプット・直接アウトカム）から、参加者（学生・院生・現職・大学教員）の変革がどう起きるか（中間・最終アウトカム）の支援と評価が重要であり、参加者のリフレクションが促されるための工夫が求められる。評価についても「観」の転換を目標とする場合、「やっていないつもりができていく」といった受講生をすくい上げる取組も期待したい。</p> | <p>I. (1) ～ (7) 再掲</p> <p>I. (1) ～ (7) 再掲</p> <p>I. (1) で述べたとおり、「新・兵庫教育大学教員養成スタンダード（案）」では、「教師として学び続ける力」の育成という軸を変更せず、CPD (Continuing Professional Development) の概念に基づき、スタンダードを大学が提供すべき教育課程の規準と位置づけた。また、これまでスタンダードと呼んでいた個々の資質能力に該当する項目を「教職基盤」と名付け、学生・教職員の双方の捉え直しを図った。このスタンダードの改定が、自己評価システムの在り方に大きく影響すると考えている。</p> <p>アウトプットやアウトカムを明確にして、評価したいと考えている。アウトプットやアウトカムの妥当性については、海外の先進事例を収集し、検討しているところである。</p> | <p>I. (2) で述べたとおり、「新・兵庫教育大学教員養成スタンダード（案）」に基づき、自己評価システムの在り方を検討する。現行スタンダードの下でも、クラス単位で年2回のリフレクションミーティングが行われている。この取組を継続しつつ、特に、学生が自己評価したものを、大学教員や他の学生が共にリフレクションする方法、及びその共有方法の検討によって、変革への支援と評価を可能にしたい。リフレクション及びその共有によって「やっていないつもりができていく」といった受講生をすくい上げる取組も可能になるのではないかと考えている。</p> <p>教員や学生は、「学習者は、教えないと何もできないとは考えていない」という調査結果や、実習生の授業を見ると、教え込む授業になっていたりすることから、学習観、授業観の転換をキーワードにして、直接アウトカムから中間アウトカムに移行するところがポイントになると考え、参加者のリフレクションが促されるための工夫を検討する。</p> |

兵庫教育大学 教員養成フラッグシップ大学 学内推進体制

先端教職課程カリキュラム開発センター (C-TEX)
2022.4.~



C-TEX

Center of
Teacher Education Program
for the Transformation

教員養成フラッグシップ大学指定事業

兵庫教育大学
先端教職課程カリキュラム開発センター

先端教職科目
研究開発ラボ 2022.4~

教職課程改善システム
研究開発ラボ 2022.4~

兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学
コンソーシアム
2022.4.~ (事務局はC-TEX)

教員養成・研修高度化センター (CReATE)
2018.4.~



Center for Research in
Advanced Teacher Education

教員養成・研修
デザインコア 2022.4~

先端教職科目研究開発ラボ

- ① 教員養成スタンダード開発チーム
- ② 学習観転換科目開発チーム
- ③ インクルーシブ教育チーム
- ④ EdTechチーム
- ⑤ データサイエンスチーム
- ⑥ STEAM教育開発チーム
- ⑦ デジタル教科書チーム
- ⑧ 大学・附属共同研究チーム
- ⑨ 連携協働科目開発チーム
- ⑩ 教職大学院共通基礎科目開発チーム

教職課程改善システム研究開発ラボ

- ⑪ FDデザインチーム
- ⑫ 社会的インパクト評価ツール開発チーム
- ⑬ 教員養成ネットワーク構築チーム

兵庫教育大学 教員養成フラッグシップ大学 推進体制

令和4年11月末日現在

| 研究組織 | 役割 | 学内体制 (13チーム) () は関係教職員の延べ数 | 連携機関 (36機関) | | | |
|--|---|--|---|--|---|--|
| | | | 企業(13社) (再掲あり) | 大学(7大学) | 教員研修機関・教育委員会 ・学校・社会教育施設(10機関) | 教育長協議会、校長会 (6団体) |
| 先端 教職 課程 カリ キュ ラム 開発 セン ター | 新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの策定・改善・評価及び教職科目体系の見直し | ①教員養成スタンダード開発チーム (10) | | 上越教育大学 滋賀大学 岡山大学 鳴門教育大学 立命館大学 | 教職員支援機構 兵庫県立教育研修所 兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会 堺市教育委員会 | 全国都道府県教育長協議会 全国都市教育長協議会 全国町村教育長会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 |
| | 「学習者中心の学びのデザイン」「ファシリテーターとしての教師の役割」「インクルーシブ教育」に関する教職科目の開発及び実装・評価 | ②学習観転換科目開発チーム (7) | 株式会社アワーズ | | | |
| | | ③インクルーシブ教育チーム (4) | 株式会社LITALICO 錦城護謨株式会社 | | | |
| | 先端教職科目 研究開発ラボ | 「EdTech」「教育データの利活用」「STEAM教育」に関する教職科目の開発及び実装・評価 | ④EdTechチーム (8) | 株式会社MM総研 ダイワボウ情報システム株式会社 Google 東京書籍株式会社 株式会社神戸新聞社 | | |
| | | | ⑤データサイエンスチーム (7) | 株式会社MM総研 Google ダイワボウ情報システム株式会社 東京書籍株式会社 | | |
| | | ⑥STEAM教育開発チーム (13) | インテル株式会社 ダイワボウ情報システム株式会社 錦城護謨株式会社 | | 篠山チルドレンミュージアム 兵庫県立豊岡高等学校 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 加西市教育委員会 | |
| | | ⑦デジタル教科書チーム (7) | 東京書籍株式会社 | | | |
| | 附属学校における共同研究の推進 | ⑧大学・附属共同研究チーム (5) | インテル株式会社 ダイワボウ情報システム株式会社 | | | |
| | 教師の連携・協働による教育体制の構築に関する教職科目の開発及び実装・評価 | ⑨連携協働科目開発チーム (4) | 本郷さくら総合法律事務所 | | 南あわじ市教育委員会 | |
| | 教職大学院共通5領域に加える新たな領域科目の開発及びその汎用化 | ⑩教職大学院共通基礎科目開発チーム (5) | | | | |
| 教職課程改善 システム 研究開発ラボ | 教職課程改善システム研究開発 | ⑪FDデザインチーム (4) | 株式会社アワーズ | | | |
| | | ⑫社会的インパクト評価ツール開発チーム (4) | | | | |
| | 取組の普及・波及のための方策検討 | ⑬教員養成ネットワーク構築チーム (8) | 株式会社キャリアリンク | | | |

《今後具体的な連携内容を調整する機関》
 ・株式会社リクルート
 ・Global Language Institute
 ・芸術文化観光専門職大学
 ・放送大学

【兵庫教育大学】 自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX 事業実施計画(工程表)

ーアジャイル型手法を導入したカリキュラム開発ー

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|
|--|-------|-------|-------|-------|-------|

① 学部学生が教職に向けて「自律した学修者」として自らを高められる新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの開発および教職科目体系の見直し

| | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|-----------------------|-----------------------|
| 新・兵庫教育大学教員養成スタンダードの提案 | ・現行の兵庫教育大学教員養成スタンダードの見直し | ・小学校版スタンダードの修正・確定 ・幼稚園、中学校の教員養成向け詳細版の作成 | ・スタンダードの実装・評価 | ・スタンダードの評価・改善 | ・スタンダードの評価・改善 |
| 学生の成長を可視化するツールの運用と改善 | ・現行スタンダードに基づくe-ポートフォリオ運用の取り組みの振り返りと課題の明確化 ・新スタンダードに基づく学生の成長を可視化する方策の検討 | ・新スタンダード詳細版の策定 ・自己評価システムのあり方の策定 | ・令和6年度入学生から自己評価システムの運用開始及び評価・改善 | ・自己評価システムの運用開始及び評価・改善 | ・自己評価システムの運用開始及び評価・改善 |
| 新・兵庫教育大学教員養成スタンダードに基づく教職科目体系の見直し | ・新スタンダードで整理した「教職基盤」による新たな教職科目体系の見直しの論点の明確化 | ・Society5.0時代に対応した新たな教職科目を加えた教職科目体系を新スタンダードに基づいて再構成 | ・見直した教職科目体系を令和6年度入学生から適用 ・見直した教職科目体系の評価・改善 | ・見直した教職科目体系の評価・改善 | ・見直した教職科目体系の評価・改善 |

② 先導的・革新的な教職科目の研究・開発

| | | | | | |
|---|---|---|--|-----------------------------|---|
| <p>【テーマ1】 学習者中心の学びのデザイン、ファシリテーターとしての教師の役割、インクルーシブ教育に関する科目開発</p> <p>【テーマ2】 Edtech、教育データの利活用、STEAM教育に関する科目開発</p> <p>【テーマ3】 教師の連携・協働による教育体制の構築に関する科目開発</p> | <p>【テーマ1】 学習科学と授業のリデザイン ラーニング・ファシリテーションの理論と実践 インクルーシブ教育基礎論 インクルーシブ教育実践論</p> <p>【テーマ2】 デジタル学習環境と情報活用 小学校プログラミング教育教材論 情報モラル・セキュリティ教育論 教育データサイエンス STEAM教育概論 STEAM教育演習</p> <p>【テーマ3】 子どもの安全と学校組織 教師の連携・協働と学校経営 多機関連携と学校防災</p> | <p>・企業との共同試行的授業の実施と科目内容の確定</p> <p>・従来の教職科目の授業内容及び単位数の確定</p> <p>・具体的な教材研究の推進</p> <p>・整備した学習環境を活用した試行実践を展開(学内、附属小学校、附属中学校)</p> <p>・関連する学校内外での連携・協力による学校課題解決の実践経験のある研究者等へのインタビュー取材の継続</p> <p>・具体的な教材開発</p> | <p>・令和6年度入学生から順次実装</p> <p>・アジャイル型手法による開発・実装・評価</p> | <p>・アジャイル型手法による開発・実装・評価</p> | <p>・アジャイル型手法による開発・実装・評価</p> <p>・コアカリキュラム試案の作成</p> <p>・コアカリキュラムの確立</p> |
| <p>【テーマ4】 教職大学院共通5領域に加える新たな領域科目の開発とその汎用化</p> | <p>【テーマ4】 学習科学と授業のリデザイン ラーニング・ファシリテーションの理論と実践 STEAM教育発展論 教育データサイエンス発展論 インクルーシブ教育発展論</p> | <p>・共通5領域に加えて設定する新たな領域の枠組検討</p> <p>・単位化に必要な条件整備</p> <p>・詳細なシラバス開発</p> <p>・試行実践による成果と課題の明確化</p> | <p>・令和6年度入学生から実装</p> | | |

【兵庫教育大学】 自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX 事業実施計画(工程表)

ーアジャイル型手法を導入したカリキュラム開発ー

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|
|--|-------|-------|-------|-------|-------|

① 全国的な教員養成ネットワークのプラットフォーム構築による先導的プログラムの展開

| | | | | | |
|---|-------------------------------|---|--|---|---|
| 「兵庫教育大学教員養成フ ラッグシップ大学コンソー シアム」の運営 | ・コンソーシアムの設立 | | | | |
| | ・連携機関による進捗管理と普及のためのプラットフォーム構築 | ・学校現場や教育委員会等ステークホルダーによる評価と改善意見の反映 | ・学校現場や教育委員会等ステークホルダーによる評価と改善意見の反映 | ・学校現場や教育委員会等ステークホルダーによる評価と改善意見の反映 | ・学校現場や教育委員会等ステークホルダーによる評価と改善意見の反映 |
| | | ・連携大学間における単位互換等による試行の検討 | ・連携大学間における単位互換等による試行の検討 | ・連携大学間における単位互換等による試行の検討 | ・連携大学間における単位互換等による試行の検討 |
| | | ・大学等連携推進法人等を活用した連携教職課程の運営・拡充の検討 | ・大学等連携推進法人等を活用した連携教職課程の運営・拡充の検討 | ・大学等連携推進法人等を活用した連携教職課程の運営・拡充の検討 | ・大学等連携推進法人等を活用した連携教職課程の運営・拡充の検討 |
| TEXプログラムの成果を検証するための社会的インパクト評価ツールの開発・運用 | | ・社会的インパクト評価のためのツール開発 ・アジャイル型手法による改善 | ・社会的インパクト評価のためのツール開発 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・社会的インパクト評価のためのツール開発 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 ・社会的、環境的なアウトカムの定量的・定性的な把握 | ・社会的インパクト評価のためのツール開発 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 ・社会的、環境的なアウトカムの定量的・定性的な把握 |
| 成果の展開と普及 | | ・オンライン教材の作成、パンフレット配布 ・学校現場や教育委員会への広報 | ・科目導入説明会、シンポジウム等の随時開催 | ・科目導入説明会、シンポジウム等の随時開催 | ・科目導入説明会、シンポジウム等の随時開催 |

② 教職課程におけるFDモデルの開発・改善

| | | | | | |
|----------------|----------------------------------|--|--|--|--|
| 人材育成・能力開発目標の設定 | ・本学が構築した「ベストクラス」の概念を援用したFDモデルの開発 | ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 |
| FD研修会の企画・実施 | | ・全国の教職課程教員を対象としたFD研修会(オンライン開催含む)の企画・実施 | ・全国の教職課程教員を対象としたFD研修会(オンライン開催含む)の企画・実施 | ・全国の教職課程教員を対象としたFD研修会(オンライン開催含む)の企画・実施 | ・全国の教職課程教員を対象としたFD研修会(オンライン開催含む)の企画・実施 |

【兵庫教育大学】 自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX 事業実施計画(工程表) ーアジャイル型手法を導入したカリキュラム開発ー

取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|------------------------------------|---|--|---|---|---|
| ① 学部から教職大学院への接続による教員養成の高度化 | | | | | |
| 5年一貫による学部・教職大学院の一体的な教員養成カリキュラムの開発 | ・中教審の「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会における「教師の養成・採用・研修の改善を求める答申」(12月)をうけた専門職大学院設置基準の改正動向を見据えた構想の見直し | ・専門職大学院設置基準の改正動向を見据えた5年一貫カリキュラムの検討 ・学部と教職大学院の科目の重複の見直しを行う | ・専門職大学院設置基準の改正動向を見据えた5年一貫カリキュラムの検討 ・学部と教職大学院の科目の重複の見直しを行う | ・見直した教職科目体系の評価・改善 | ・見直した教職科目体系の評価・改善 |
| 養成・採用・研修の一体的教職キャリア形成の在り方の検討 | ・現職教員研修(教員育成指標)との連携の在り方の見直し | ・新教員養成スタンダード、教員育成指標と関連付けた研修プログラムの検討 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・新教員養成スタンダード、教員育成指標と関連付けた研修プログラムの実装・評価・改善 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・新教員養成スタンダード、教員育成指標と関連付けた研修プログラムの実装・評価・改善 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 | ・新教員養成スタンダード、教員育成指標と関連付けた研修プログラムの実装・評価・改善 ・アジャイル型手法による開発・実装・評価 |
| ② 教育大学(学部)における専門職養成機能の一層の強化 | | | | | |
| 教職科目体系の見直し | ・現行科目の体系の抜本的な見直し ・移行措置期間の対応方法の検討・運用 | ・Society5.0時代に対応した新たな教職科目を加えた教職科目体系を新スタンダードに基づいて再構成 | ・見直した教職科目体系を令和6年度入学生から適用 ・見直した教職科目体系の評価・改善 | ・見直した教職科目体系の評価・改善 | ・見直した教職科目体系の評価・改善 |
| 教職アドバンスト科目(特例措置以外の科目)の開設 | ・教職科目体系見直しの中での教職アドバンスト科目の検討 | ・教職科目体系見直しの中での教職アドバンスト科目の検討 | ・教職アドバンスト科目の実装・評価・改善 | ・教職アドバンスト科目の実装・評価・改善 | ・教職アドバンスト科目の実装・評価・改善 |

指定大学が加える科目

大学名：兵庫教育大学

| 学部/ 大学院 | 科目名 | 対象 学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点 テーマ | 開設年度 | 科目概要 |
|------------|---------------|----------|-----|----|----|------------------------------|------|-----------|-------|--|
| 学部 | 子どもの安全と学校組織 | 1 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ④ | 令和6年度 | <p>・「学校安全」について、学校種ごとの留意点の違いの理解 就学前（幼稚園・保育所等）、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校では、児童・生徒の発達段階の違いや教育内容の違いに対応して「学校安全」の捉え方も違うということを、施設見学と関係者による講話を通じて学習する。</p> <p>・ケース教材を用いた「演習と講義」の組み合わせによる「学校安全」理解 学校において直面しうる「学校安全」のリスク事象（学校における生活安全、教育活動中における事故への対応、不審者侵入への対応、登下校における交通安全、食物アレルギーへの対応）について、それぞれケース教材を用いた演習（1回）とその振り返りと解説（1回）を実施し、「学校安全」に対する組織的な取り組みについて、当事者意識を持った学習をする。</p> |
| 学部 | 教師の連携・協働と学校経営 | 3 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ④ | 令和6年度 | <p>・ケース教材を用いた「連携・協働」の理解 学校内における教師間の連携・協働や、教師と他の専門職（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）との連携・協働、さらには学校・教師と外部機関（児童相談所等）との連携・協働などが必要となる場面を取り上げたケース教材について、グループワークによるケースの検討（1回）と、回答の共有と解説（1回）を組み合わせる。これにより、教室内におけるさまざまな事象についての捉えを幅広いものとし、多様な連携・協働の方法と、連携・協働における留意点について理解する。</p> |

| 学部/ 大学院 | 科目名 | 対象 学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点 テーマ | 開設年度 | 科目概要 |
|------------|------------|----------|-----|----|----|------------------------------|------|-----------|-------|---|
| 学部 | 多機関連携と学校防災 | 3 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ④ | 令和6年度 | <p>・「災害」についての幅広い理解 学校防災を考える前提として、「災害」を自然科学の側面・社会科学の側面の双方から理解する。あわせて、防災や災害発生後の対応において発生する事象に際しては、心理的側面や法的側面においても検討を要する点が発生することを、幅広く理解する。</p> <p>・多機関連携による「防災」を理解 学校防災に関連する諸制度とその実際について学習し、災害発生に備える側面においても、また災害発生後の対応においても、学校の立地する地域の諸機関・諸団体との連携が重要であることを理解する。</p> <p>・実践的な学校防災を構想 防災・減災の研究や、災害発生時の葛藤やコミュニケーションについて学習するとともに、実際に防災教育を行っている自治体の例に学び、児童・生徒や保護者・地域住民にどう防災を啓発するかというプログラムを構想し、授業全体の学習内容の振り返りと総合化を行う。</p> |

| 学部/ 大学院 | 科目名 | 対象 学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点 テーマ | 開設年度 | 科目概要 |
|------------|--------------|----------|-----|----|----|------------------------------|------|-----------|-------|--|
| 学部 | インクルーシブ教育基礎論 | 2 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ⑥ | 令和6年度 | <p>インクルージョン、インクルーシブ教育のあり方について考える。具体的には、当事者や関係者、教科教育の専門家等の話や対話を通して、ソーシャル・インクルージョン、インクルーシブ教育の理念、発達障害等の多様な児童生徒の指導・支援、インクルーシブ教育と教科教育等との関連、関係者との協働に関する理解を深める。</p> <p>本授業を通して、児童生徒の多様性を認めうる素養を高めることが期待される。</p> <p>到達目標：インクルージョン、インクルーシブ教育の理念および児童生徒の多様性を理解する。</p> |
| 学部 | インクルーシブ教育実践論 | 2 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ⑥ | 令和6年度 | <p>インクルーシブ教育を実践する素養を高める。具体的には、特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた、一人ひとりの学びを充実させるための学校づくり、授業づくりや学級経営、個別の指導計画や個別の教育支援計画、学校組織としてインクルーシブ教育を推進していくための方法である支援会議を取り上げる。</p> <p>本授業では、ワークショップなどの演習を通して、学校場面の事例をもとに、授業案や指導計画等の作成に取り組む。</p> <p>到達目標：授業案や指導計画を立案するポイントを理解する。支援関係者間のコミュニケーションのあり方を理解する。</p> |

| 学部/ 大学院 | 科目名 | 対象 学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点 テーマ | 開設年度 | 科目概要 |
|------------|-----------------------|----------|-----|----|----|------------------------------|------|-----------|-------|---|
| 学部 | 学習科学と授業のリデザイン | 2 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ①② | 令和6年度 | <p>人が潜在的に持っている学びの力を引き出す環境をデザインするという学習科学の視点に立ち、他者と考えながら学ぶ授業づくり、そこでの教員の役割や評価等について学ぶ。</p> <p>主な内容・テーマは次のとおり。</p> <p>①学習観の転換とその核心としての学習者観の転換（人はいかに学ぶか、社会構成主義を背景にした学習の再定義等）</p> <p>②新しい学習・学習者観に基づく学習環境のデザイン（他者と考えながら学ぶ授業づくり、新たな学習観のもとで期待される教員の多様な役割、転換された学習・学習者観に依拠した新しい評価のかたち等）</p> <p>20名程度のグループを編成し、そこに大学教員と大学院生がかかわる。すなわち、受講生、大学教員、大学院生による「学びのトライアングル」を構成して、授業を展開する。</p> |
| 学部 | ラーニング・ファシリテーションの理論と実践 | 2 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ①② | 令和6年度 | <p>学習者中心の授業で求められるファシリテーターとしての教員の役割やファシリテーションに関する理論を学び、既存授業のリデザイン、グループワークやワークショップの実践等を通して、ラーニング・ファシリテーションについての理解を深める。</p> <p>主な内容は次のとおり。</p> <p>①ファシリテーターとしての教員の役割</p> <p>②ファシリテーションの理論とその展望</p> <p>③既存授業のリデザイン</p> <p>④グループワークやワークショップの学校教育における展開可能性</p> <p>受講者全体を対象に展開する活動とグループ単位で取り組む活動を組み合わせて実施する。</p> |

| 学部/ 大学院 | 科目名 | 対象 学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点 テーマ | 開設年度 | 科目概要 |
|------------|-----------------|----------|-----|----|----|------------------------------|------|-----------|-------|--|
| 学部 | デジタル学習環境と情報活用 | 1 | 1 | 1 | | | 幼小中高 | ⑤ | 令和6年度 | <p>児童一人一台端末及びクラウドが導入された学習環境における情報活用型の授業展開を理解するとともに、代表的なデジタル学習環境の活用方法を体験することで、実践的指導力を高める。</p> <p>内容① Windows OS端末とMicrosoft 365 Education、 内容② Chrome OS端末とGoogle Workspace for Education、 内容③ iPadOS端末、 内容④ ロイロノートなど、代表的なデジタル学習環境を取り上げ、その機能や特徴などについて講義するとともに、情報活用型授業の実践に向けた具体的な活用方法について演習を行う。</p> <p>なお、内容①～④は、4クラスに分けてローテーションで実施する。また、いずれのクラスにおいても各内容の初回導入時には、ガイダンスを実施する。</p> |
| 学部 | 小学校プログラミング教育教材論 | 2 | 1 | 1 | | | 幼小 | ⑤ | 令和6年度 | <p>小学校プログラミング教育で活用される代表的な教材の特徴を理解し、具体的な学習活動の展開を体験することで、実践的指導力を高める。</p> <p>内容① プログラミング教育の導入教材(アンブラグドCS、Viscuit、WeDo)と学習展開、内容② ビジュアルプログラミングの特徴と教材研究、内容③ 電気回路を制御するプログラミングの基礎と教材研究、内容④ フィジカルプログラミングの基礎と教材研究など、小学校プログラミング教育の具体的な教材を取り上げ、その特徴、利点などについて講義するとともに、活用方法について演習を行う。</p> <p>なお、内容①～④は、4クラスに分けてローテーションで実施する。また、いずれのクラスにおいても各内容の初回導入時には、ガイダンスを実施する。</p> |

| 学部/ 大学院 | 科目名 | 対象 学年 | 単位数 | 必修 | 選択 | 選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法 | 免許種 | 重点 テーマ | 開設年度 | 科目概要 |
|------------|-----------------|----------|-----|----|----|------------------------------|------|-----------|-------|--|
| 学部 | 情報モラル・セキュリティ教育論 | 2 | 1 | 1 | | | 幼小中高 | ⑤ | 令和6年度 | <p>学校における情報モラル・セキュリティ教育の概要を理解する。主に、小学校の情報モラル・セキュリティ教育における実践的な授業デザイン、カリキュラム・マネジメントの在り方を考える。</p> <p>学習指導要領及び解説の記述に基づき、学校における情報モラル・セキュリティ教育について講義するとともに、情報モラル・セキュリティに関する学習内容を紹介する。情報モラル・セキュリティ教育の授業デザインやカリキュラム・マネジメントを体験し、今後の情報モラル・セキュリティ教育の在り方について、考えを深める。</p> |
| 学部 | 教育データサイエンス | 1 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ⑤ | 令和6年度 | <p>学校教育におけるデータの活用に向けて、データの統計的な解析に必要な数学的知識を身に付けるとともに、具体的なデータの処理方法を習得する。</p> <p>前半は、データの統計的な解析に必要な基礎理論、記述統計、推測統計の考え方について体系的に学習する。</p> <p>後半は、前半の学習を踏まえて、具体的なデータ分析の演習を通して、検定や相関等の分析方法を学習する。</p> |
| 学部 | STEAM教育概論 | 2 | 1 | 1 | | | 幼小中高 | ⑤ | 令和6年度 | <p>STEAM教育の全体像を理解し、今後のSTEAM教育を展望できるように、STEAM教育の考え方や展開の仕方、小学校等における実践事例など事例を交えて講義する。</p> |
| 学部 | STEAM教育演習 | 2 | 2 | 2 | | | 幼小中高 | ⑤ | 令和6年度 | <p>前半は、STEAM教育のポイントとなる教科横断やデザイン思考、PjBL、企業や地域との連携等を体験できるようなSTEAM探究を経験する演習を行う。</p> <p>後半は、STEAM探究の省察を通して、STEAM教育を展開する指導者としてのあり方を考察する演習を行う。</p> |

必要修得単位数 22単位